

今年もやります! 「共通金券プレゼントセール」

東海村商工会では、「買って 使って 支えよう みんなで 育む 東海村」を合言葉に、共通金券プレゼントセール事業を実施します。村内の商業・飲食・サービス店(76店舗で実施)で、500円お買い上げごとに1ポイントを差上げます。10ポイント集めると「東海村おすすめセクション」や各店舗で使える共通金券が当たる抽選に応募できます。村内の実施店で買い物をしてポイントを集め、ぜひご応募ください。

期間▼7月1日(土)～12月31日(日)

実施店▼「共通金券プレゼントセール」の掲示(のぼり旗や店頭ポスター)のある店舗

抽選月▼8月から令和6年1月まで(毎月1回抽選、全6回)※当選者の発表は景品の発送をもってかえさせていただきます。

内容▼**特別賞**…東海村おすすめセクション*(1本)
▼**特賞**…共通金券3万円分(1本)▼**1等**…共通金券1万円分(1本)▼**2等**…共通金券3,000円分(5本)

▼**3等**…共通金券1,000円分(約80本)▼**第22回**

記念ニコニコ賞…共通金券1万円分(5本)※東海村おすすめセクションは、村内で作られている魅力ある「おいしい」贈り物です。詳細は、東海村観光協会ホームページをご覧ください。▲HPはこちら

その他▼共通金券は東海村商工会で販売しています。贈答用などにぜひご利用ください。

問い合わせ▼東海村商工会(☎282-3238)



▲HPはこちら

ふるさと歴史 マツチが照らす村の歴史

歴史と未来の交流館学芸員 高増 慧

歴史と未来の交流館では、考古学の発掘調査や動植物の調査、民俗学調査など、さまざまな分野の調査・研究を行っています。これらの活動の中で、埴輪や土器、化石、農機具などを収集しています。今回は、これまでに収集した博物館資料の一部を紹介いたします。

昨年、幕末期より東海村に住む方のお宅から、実に504点ものマツチ箱を寄贈いただきました。喫茶店などで無料で配っていたマツチ箱で、多くの方はゴミとして捨ててしまったのです。もし倉庫の中から発見されたとしても、「がらくた」と考える方がほとんどだと思います。しかし、これも歴史資料の一つです。収集したマツチ箱は、電話番号の桁数などから、1950年代から1970年代に、喫茶店やバー、小料理店、食堂などが作ったものと考えられます。東京や水戸のほか、高萩のものが多く数えられます。一方で東海村のマツチ箱は4点と少なく、持ち主が東海村から水戸や高萩へ遊びに行っていたことがうかがえます。

これらは、当たり前ですが



【寄贈されたマツチ箱(左上は東郷青児のイラストが描かれたもの)】

喫煙者のために配られました。つまり、この時期は喫煙者が多く、広告としてマツチ箱による宣伝効果が大きかったという歴史や、たばこで一服するために喫茶店に客が来ていたという慣習が分かります。また、1970年代半ば以降に安価なライターが普及していく前は、マツチが活躍していたことも示しています。このように、多くの方が捨ててしまっていたであろうマツチ箱も、がらくたではなく歴史資料として捉えることができます。

これらのマツチ箱は、美術史の観点からも楽しめます。写真左上のマツチ箱は池袋のある喫茶店のものですが、パッケージは洋画家・東郷青児が描きました。東郷青児は、戦前からモダンな美人画で知られ、戦後は芸術作品だけでなく、洋菓子店や喫茶店の商品などのパッケージを手掛けました。ここでは、手のひらサイズのキャンバスに描かれた昭和の美人画を鑑賞できます。

東海村の先輩が一服しながら紡いだ歴史を、現在、そして未来の方たちも学ぶことができ、貴重な資料を収集することができました。